



調印式で握手を交わす佐々木前工学部長とレナウィーラ工学部長

一九九四年三月七日 広島大学工学部とスリランカ国ペラデニヤ大学工学部との間に、学部間交流協定が締結調印された。調印式は、スリランカ中部キャンデー市にあるペラデニヤ大学工学部で行われ、本学からは佐々木和夫工学部長（当時）と筆者（日下部）が、ペラデニヤ大学からはレナウィーラ工学部長はじめ約三十名が参列した。学部間交流協定の調印は工学部で五番目、佐々木前工学部長の任期中で四大学目に当たる。なお本学生物生産学部とペラデニヤ大

## ペラデニヤ大学と学部間交流協定締結される

工学部 建設構造工学講座 ◆ 日下部 治



学農学部との間には、既に一九九三年学部間協定が締結され、両学部での交流が開始されている。ペラデニヤ大学はスリランカで最も長い伝統をもち、七学部を有する大規模大学で、政財界に多くの人材を輩出している。ペラデニヤ大学工学部は一九九二年に五十年を迎え、現在、機械工学、土木工学、情報工学、電気・電子工学、工業数学、生産工学、化学工学の七学科から構成されている。今回の交流協定締結は、大学が同窓であるニマール博士と、筆者

の専門分野である地盤工学での共同研究の話から発展したものである。一九九三年三月 工学部国際交流研究プロジェクト調査費の援助を受けて、低引洋隆助教授と筆者が昨年三月同大学を訪問して、学生への講義を行うとともに工学部長らと交流についての話し合いを進め、その後ニマール博士が本学工学部を訪れ、佐々木前工学部長と協定の意志や意義について意見を交換し、本年三月に調印にまでこぎつけたものである。

交流の第一番目のプロジェクトは、日本学術振興会からの研究助成を得て、二年間スリランカの地すべり地の共同研究を行うもので、本学からは筆者の他、低引洋隆工学部助教、北川隆司理学部助教が調査に参加する。ペラデニヤ大学からは大学院学生も調査に参加する予定である。

工学部では、茂里一敏新工学部長のもとで、現在五つの学部間交流協定の実をさらに挙げるため、運営組織を作って広範囲の分野での交流に広げるべく努力が開始された。アジア各国の大学では、大学院レベルでの自前の教育を望んでいるものの、いずれも教官の不足と研究設備・資金不足に悩んでいる。今回の交流協定締結が、少しでもスリランカの高専教育の発展に役立てばとの思いから、ペラデニヤ大学で学生向けと社会人向けの集中講義を、この夏に予定している。（くさかべ・おさむ）

## 第十二回アジア競技大会を成功させよう

No.1

国際平和文化都市を都市像として掲げ、世界の恒久平和を訴え続けている広島市で、第十二回アジア競技大会が十月二日から十六日までの十五日間開かれる。アジア諸国から若者たちが広島に集い、スポーツをはじめとして文化、芸能の交流を深める。これは、アジアの友好親善に大きな役割を果たすとともに、国際平和の実現にも貢献することになる。

### アジア競技大会とは

アジア競技大会は、アジアオリンピック評議会（OCA）に加盟する国や地域が参加し、アジア諸国の相互理解や友好親善を目的に行われるアジア地区の総合スポーツ大会である。本大会は四年ごと、オリンピックの中間年に開かれていて、公式プログラムには、スポーツ競技のほか、絵画・彫刻などの展示や音楽・伝統芸能の公演なども含まれている。

### 日本は第一回大会から参加

インドのネール首相の提唱により、十一カ国が参加して一九五一年（昭和二十六年）にニューデリーで最初の大会が開かれた。その後、参加国は増えてきているが、日本は第一回大会から続けて参加している。

今回の広島大会は、日本では一九五八年（昭和三十三年）の東京大会に次いで二度目となり、首都以外の都市で開かれる初めての大会である。

### 金メダルのゆくえ

アジア大会における金メダル獲得数は、第一回大会から第八回大会までは日本が一位であった。第五回大会では、

水泳の二十八種目すべてで金メダルを獲得するという快挙を成し遂げた。しかし、中国が第七回大会から参加するようになってからは状況が変わり、第九回大会以降の金メダル獲得数は中国が一位となっている。

### 最大規模の大会となる

今回の広島大会には、四十三の国・地域から、選手・役員約七三〇〇人が参加し、三十四競技三三七種目において熱戦が繰り広げられる予定である。広島大会は参加国・地域数、実施競技数、参加選手・役員数のいずれをとっても大会史上最大規模となる。

なお、競技は広島県内の八市二町二村の四十三会場（自転車競技の団体ロードのみ山口県）で行われる。

### 競技施設の大半は完成

大会のメイン会場となる広島広域公園陸上競技場（ビッグアリーナ）をはじめ、四十三の競技会場の大半が完成し、選手村も六月の完成に向けて順調に工事が進んでいる。

また、大会時の空の玄関となる広島空港、大会参加者輸送の大動脈となる山陽自動車道も昨年十月に完成した。広島市の中心部とメイン会場と選手村をつなぐ新交通システム（アストラムライン）も八月下旬の開業を目指し試運転が行われるなど、ハード面の準備は着々と進んでいるようだ。

（広報委員長 辰巳 淳）